

## 令和6年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る 文部科学大臣表彰について

令和6年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰について、区立小中学校から推薦対象を募集のうえ、緑小学校 i C S の取組を推薦したところ、下記のとおり表彰が決定したので報告する。

### 記

#### 1 表彰対象

コミュニティ・スクール委員会と学校支援地域本部の一体的実施により、学校運営の改善・強化のみならず、学校を核とした地域づくりにも効果を上げている取組。

#### 2 被表彰取組

緑小学校コミュニティ・スクール委員会、緑小学校支援地域本部

「ビオトープの設置と維持管理を軸とした子どもたちとともに考える環境教育の実践」

※裏面参照

#### 3 その他

(1) 令和7年2月28日(金)に文部科学省で表彰式が開催される予定。

(2) 被表彰取組は全107件(うち、優秀賞5件を含む)。東京都では板橋区その他、杉並区、三鷹市、八王子市(優秀賞)が表彰を受ける。

## ビオトープの設置と維持管理を軸とした子どもたちとともに考える環境教育の実践

### 背景・取組概要

緑豊かな緑小学校の特徴を生かした環境教育をさらに推進するために、学校敷地内で自然を体験できる場所があることが望ましいと考え、校庭改修のタイミングでビオトープの設置を検討した。また、これをきっかけに子どもたちが地域住民との協働・対話を通じて、「課題発見・解決学習」を深めることをめざした。

自然体験活動を軸に、地域一体となって環境教育に取組み、持続可能な社会の担い手を育成する。

### 工夫・ポイント・特徴的な取組

#### 地域一体となったビオトープの設置・維持管理



##### ◆コミュニティ・スクール委員会（CS 委員会）

ビオトープの設置及び維持管理について、子どもたちが主体となって管理し、地域がそれをバックアップできる体制を構築するために、地域と学校が CS 委員会でアイデアを出し合った。また子どもたちから、総合的な学習で作成した「ビオトープの未来図」の実現のため、CS 委員会へ協力の依頼があり、その実現に向けて子どもたちと共に熟議を重ねた。

さらに、ビオトープ設置後の CS 委員会で「レッツビオトーク（ビオトープと Let's Talk をかけた造語）」の企画が発議された。「レッツビオトーク」は休み時間に子どもたちと地域住民、教員が集まり、生き物を観察するイベントで、自由参加にもかかわらず、現在まで月 1 回定期的な開催につながっている。



##### ◆地域学校協働活動

ビオトープの維持管理や子どもの環境教育のさらなる推進のために CS 委員会に地域学校協働活動推進員 2 名が委員として出席している。協働活動の実働部隊として、地域住民にボランティアへの参加を呼びかけて、ビオトープで使用する腐葉土づくりや、周辺への植林、階段や橋の設置などの美化活動を継続的に調整している。

また地域住民をゲストティーチャーとして招き、小学校周辺の環境に馴染むビオトープ作りやビオトープの発展に向けた学習にも寄与している。



##### ◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

子どもたちが親しみやすいビオトープにするために、CS 委員会で熟議を重ねて出たアイデアを元に、地域学校協働活動推進員が地域の方々の協力を依頼して、知恵が多く詰まった取組を実施した。その例として、地域の木エクラブとともに、ビオトープの目印となる「看板」を子どもたちがイメージした絵を元に作成したり、陶芸クラブとともに多くの生き物が住むことができるような生き物の隠れ家となる筒（焼き物）作りを行った。また地域住民のボランティアによる協力の元、ビオトープの維持管理、環境保全活動や「レッツビオトーク」のイベントを継続的に行っており、ビオトープを通して自然とのつながりだけでなく、人と人とのつながりも育んでいる。

#### ビオトープの取組から派生した「課題発見・解決学習」



令和 4 年度より CS 委員会での発案を元に、学校支援地域本部が通訳ボランティアを集めて実施している、「オンラインによる海外の小学校との交流授業」にて、子どもたちが自主的にビオトープの紹介をテーマとすることを決めて、発表した。

ビオトープを通じた環境学習で得た知識を元に、「生き物の楽園」をテーマにした第二ビオトープの設置について、子どもたちが主体となって地域住民の支援の元に取り組んでいる。

### 成果・効果

- ◆令和 4 年 4 月にビオトープが完成し、2 年半にわたり地域住民の参画を得て、子どもたちと共に維持管理が継続的に行えている。また環境教育の場としての役割だけでなく、学校と地域をつなぐ取組として浸透している。
- ◆CS 委員会と地域学校協働本部が両輪・協働で地域住民を巻き込んだ取組を実施する体制がより強固となった。ゲストティーチャーや学校支援ボランティアを招いた授業や、地域人材の人脈を生かした教育活動にもビオトープの取組が結びついている。
- ◆子どもたちはビオトープに「生き物のシェアハウス」と愛称を付けるとともに、5 年生が学習発表会において全校生徒に向けビオトープについてまとめて報告し、4 年生には管理について冊子にしたものを引き継ぐなど、持続可能な活動の担い手として活躍している。